

〔日本書紀神代〕素戔嗚尊對曰、吾元無黑心略。中不意阿姉翻起嚴顏。

〔日本書紀十略〕三年雄略○安八月天皇略○雄イカリ怒彌盛。

〔倭訓栞前編三〕いかる 忿怒をいふ、氣上イキアカるの義なり、素問に怒則氣上と見えたり、神代紀に起嚴

顔をもよめり、

〔類聚名義抄心六〕慨音鑑イキトホル 憤音忿イキトホル

〔伊呂波字類抄伊人事〕鬱イキトナル 憤 慥 悶 咆已上同

〔運歩色葉集伊〕憤イキトナリ 悶 慥音呼 咆同イキトホル

〔書言字考節用集八言辭〕憤イキドホリ 慥禮記註怒 慍同 於邑 慥文選註心 慥同 愴同 愴同

〔倭訓栞前編三〕いきどほり 憤をいふ、論語に愠をよめり、怒廻るの義、かり反き、もを略せしなり、

日本紀に懷悵を訓じ、歌にもよむ也、新撰字鏡に、悵をいきとろしとよみ、日本紀の歌にいきどほりしもと見えたり、へろ反ほなり、

○按ズルニ、イキドホルニ憤ト悵トノ二義アリ、宜シク憂條ヲ参照スベシ、

〔類聚名義抄心六〕悵上俗フクム 於睽反

〔倭訓栞中編二十二〕ふづくむ 憤をよめり、神代卷に、悵又悵恨をふづくとのみもよめり、

〔日本書紀神代一〕書曰略○中次生素戔嗚尊、此神性惡、常好哭オキフツク、國民多死、

〔倭訓栞中編二〕い。く。む。日本紀に憤をよめり、氣含の義成べし、きふ反く也、

〔類聚名義抄口二〕喟然オモホテ

〔倭訓栞前編四十五〕おもほでり 神代紀に作色又愠色をよめり、面火光の義也といへり、新撰字

鏡に喟然をもよめり、五車韻瑞注に、頰頰は怒色紅也と見ゆ、